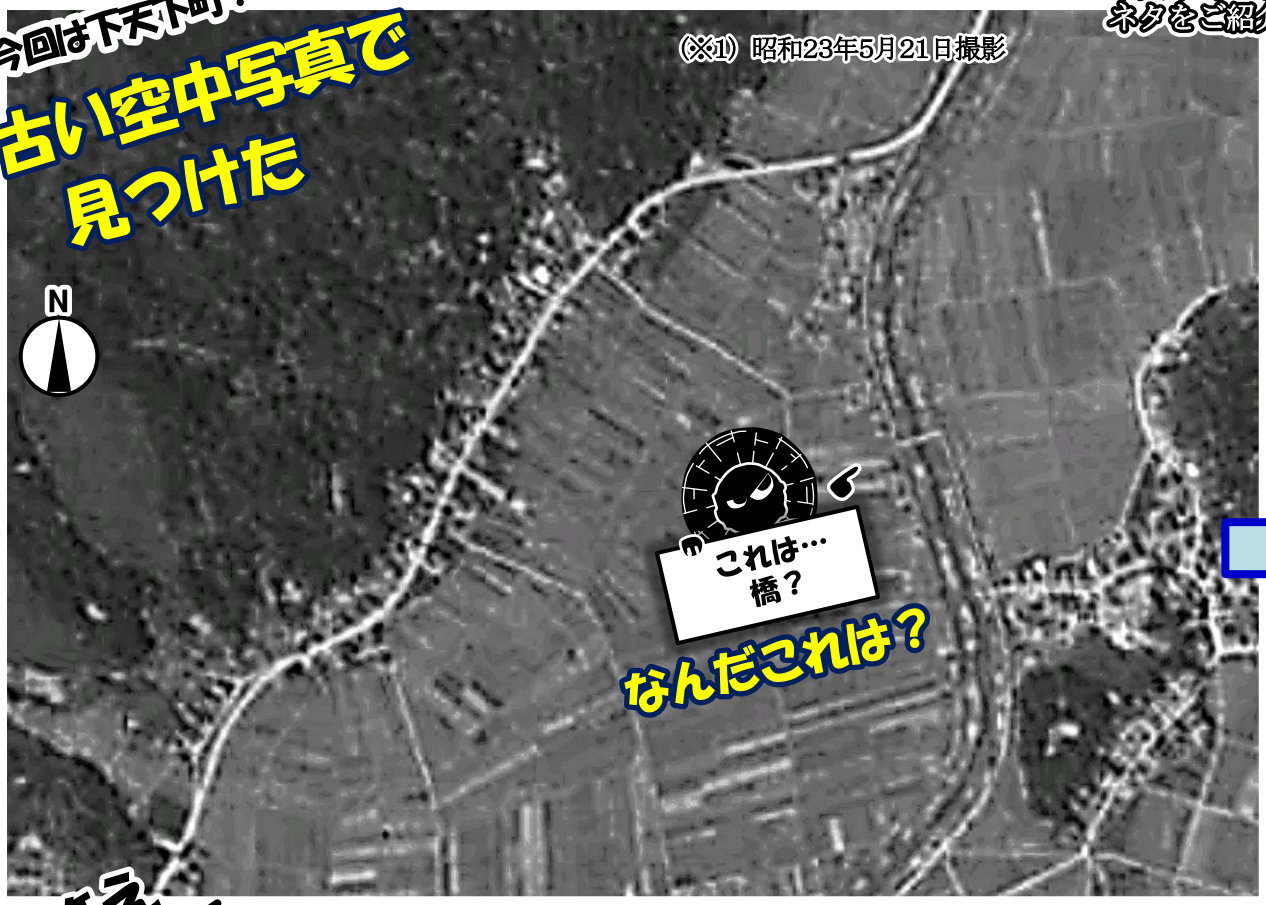
下天下の端にあった橋のおはなし

A SPECIAL EDITION
by Teamぶらひがし

下天下町のおもしろい
ネタをご紹介します。

今回は下天下町！

古い空中写真で
見つけた



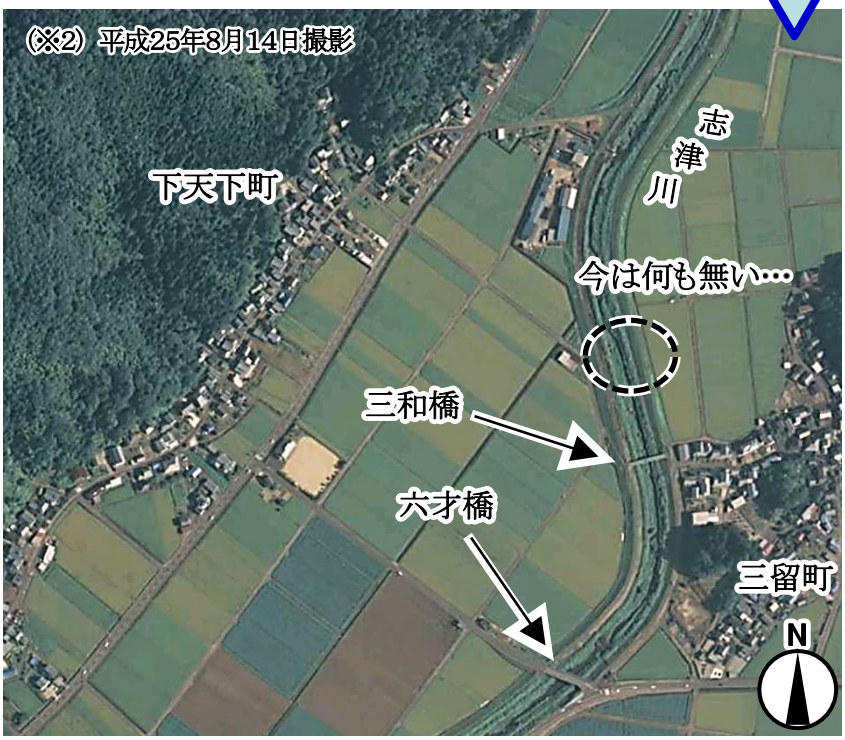
65年後

答え

最初の六才橋です。
昭和31年頃までは
ここにありました。

江戸時代より、もともと六才橋はここにありました。この六才橋は、下天下町から東へ通じる重要な橋で、石造りだったようです。
今の六才橋は、昭和56年、時代とともに重要な交通ルートが変わったことにより、古来の場所から上流約400mの所に架けられました。

(※1)(※2)
出展:国土地理院ウェブサイト。
一部、写真を切り出しています。



・ Teamぶらひがしとは、清水東公民館の広報部を中心とした有志の集まりです。日々、地区内のおもしろいネタを探しつつぶらついています。

下天下町のおいたち

下天下町の地名の由来について、慶長絵図（けいちょうえず）に三留郷手賀村（みとめごうてがむら）と書いてありますが、貞享二年（1682年）の越前国指南に、はじめて下天下村の名が書いてあります。
越知山大谷寺縁起に、「古記に曰く蚕種（さんしゅ）の天より下りたる所を天賀（ていが）という」と書いてあり、天蛾（てんが）が天賀（てが）、天下（てが）と通じ、昔蚕種の産地であったので、天賀といい、後に天下と書くようになったのではないのでしょうか。
現福井市の殿下（てんが　岡保地区）も、天賀が訛って殿下と言うようになり、昔は蚕種の産地でありました。

記事引用:清水町のむかしばなし

六才橋の歴史

下天下町から三留町へ通じる橋を「六才橋」といっていました。

元の橋は、現在の宮永製作所の南の方八十メートルの所に、架かっていて、竹生町、片粕町、三留町、清水杉谷町へ通じる重要な橋でした。今から約二百五十年程前（2018年現在）の明和六年（1769年）の橋架け替え仕様書によると、長さ五間半、巾五尺の石橋で、橋脚も高く木の欄干がついていました。

以前は、手摺がなく六才になる子どもがこの橋から落ちて死んだので「六才橋」と言うようになったとの言い伝えがあります。

大正四年に、竹生町－久喜津町－狐橋の道路が県費支弁道に昇格し、念願の久喜津橋が架けられ、これまでの猿和田（和田町）－清水尻（清水町）の堅野橋は使われなくなり、下天下町－竹生町間に「志津川橋」が架けられ、この時「六才橋」は、三留町の宮の越（今の三和橋付近）に移され、下天下町－三留町間の近道として粗末な橋が架けられました。

そして昭和五十六年には「みせや堤」（今の六才橋付近）に鉄筋の立派な永久橋が架けられ「六才橋」と名付けられました。

なお昭和二年頃から始められた、志津川の大改修事業により、屈曲した志津川の両岸に立派な堤防がつくられ、元の六才橋も架け替えられ三和橋と名付けられました。

記事の引用：清水町のむかしばなし

六才橋の危機（ひとつ前の）（昭和３４年）

◇　危機にひんした志津川六才橋附近。

現在の三和橋の場所に架かっていた六才橋については、昭和34年8月12日より降りはじめた台風6・7号による豪雨により、志津川が増水した時の写真が同年9月号の清水町広報に掲載されています。

写真は、志津川右岸の三留町気比神社近くより撮影されたと思われ、タイトルは「危機にひんした志津川六才橋附近」です。橋の中央付近の橋脚は濁流でほとんど見えなくなっている様子がわかります。又、後ろには、下天下町の山なみが確認できます。

←写真の引用：旧清水町広報紙　昭和34年9月号

今の六才橋と下天下町

今の六才橋付近より下天下町方面に向って小型無人機で撮影しています。

六才橋の完成（今の）（昭和５６年）

六才橋が完成

昭和五十三年から工事が進められていた六才橋が完成し、今年度中(※)には取付道路もでき、通行できるようになります。　※昭和56年度

いままでの六才橋は、昭和三十一年に架けられたもので木橋で老朽化がはげしく、自動車の通行、通学児童の安全を守るため、新設されることになったものです。

新しい六才橋は、旧六才橋の上流二百メートルの所に架けられ、プレビーム合成げたを使用した近代的なもので、長さ四十九メートル、幅は一・五メートルの歩道を入れて八・二五メートルあります。

総工費は一億七千七百九十万円で、内国庫補助金が一億一千八百六十万円となっています。

←↑写真と記事の引用：旧清水町広報紙　昭和56年6月号